

新潟大学人文・法・経済学部同窓会会津支部

会津支部だより (第十一号)

平成三十一年四月二日発行

第11回 定期総会開催

渡部 雅 広

平成16年法学部卒

6月9日(土)に、例年通り会津若松駅前・会津迎賓館にて「第11回新潟大学人物・法・経済学部同窓会 会津支部定期総会」が開催されました。馬場法学部長を初め来賓のご出席もたまり、29名のご参加を頂きました。

第一部の総会では、平成29年度事業報告及び収支決算、平成30年度事業計画と収支予算につきまして、町田支部長進行のもと、慎重審議され承認を頂きました。

第二部では、末廣酒造株式会社代表取締役の新城猪之吉様に記念講演を頂きました。

二〇一八年全国新酒品評会にて、福島県は金賞受賞数6年連続日本一という前人未到の記録を打ち立てました。その立役者が県酒造組合会長であられた新城様です。演題は「福島県清酒全国品評会、日本一への道」としてご講演たまわりました。



学生当時、ワンダーホーゲル部に所属されていた新城様は新潟の山と酒ともご縁があったことや、新潟の酒をライバル視しながら酒づくりに邁進されてこられた過去など、エピソードを交えてお話頂きました。

第三部の懇親会では、第二部が酒にまつわる講演でしたので、今か今かと酒好きには待ちきれない様子でのスタート。

会津支部だより

第11号

平成31年4月1日

編集発行

新潟大学
人文・法・経済学部
同窓会会津支部

(発行人) 町田久次
(事務局)

会津若松市川原町2-26

☎ 090-2026-8442

zkramnh@bd6.so-net.ne.jp

(鈴木伸康宅)

新城様のお心遣いで、特別に末廣酒造様の「玄幸」など、普段はお目にかかれないお酒が振舞われ、大変な賑わいとなりました。

今回の参加者にも、恒例の会津漆器の記念品のプレゼントがありました。

「名入り猪口」から始まり、「箸」、「箸置き」と来まして、

次回総会のご案内

新年度の総会を左記の通りご案内申し上げます。

ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時: 6月8日(土)11:00 ~

場所: 会津迎賓館 会津若松駅前

会費: 会津支部会員 4,000円

他支部、他学部の方 5,000円(予定)

講演: 拡大する健康格差の原因と対策

—命の不平等を減らすには—

講師: 会津大学短期大学部

森 文雄 様(当支部顧問)

今年「魁」でした。毎年お越し頂きますと一通りの食卓セツトが整うはずです(笑)。

また今年も新しい記念品をご用意しておりますので、是非皆様お越しください。



随想

旧新潟大本部跡地に、眠り続けていた会津藩士の遺骨

町田 久次

昭和46年法学部卒

昨年は戊辰百五十周年の年であったのだが、秋に新潟市で、私も所属する山川健次郎顕彰会が参加した「会津・越後・長州」三地域連携市民フォーラム」が開かれたおりに、会津藩士らが眠る新潟県護国神社の戊辰役東軍慰霊碑を参拝する機会にめぐまれた。

この東軍慰霊碑は、わたしたちが学んだ新潟大学の跡地と深くかかわっているのだが、その悲しい史実はあまり知られていない。ぜひ、同窓生各位にも知っていただきたい。そして新潟に行った際には、新潟県護国神社の慰霊碑に足をはこんでいただきたいものだ。

会津藩士、正確には奥羽越列藩同盟(米沢藩、会津藩、庄内藩など)の、判明しただけでも九十二柱が眠り続けていたのは、現在の新潟市中央区旭町の旧新潟大学本部跡地である。ここはわたしたちが学んだ時代まで現役の本部だったから、よく覚えていた。たぶん本部移転後の昭和60年、ここを発掘した



新潟県護国神社にある戊辰役東軍慰霊碑

ら戊辰東軍戦死者の遺骨が出てきたのだという。戦死、戦没された方々の平均年齢は二十七歳と記載されている。

とつても驚きだ。

どうぞ、安らかに眠りください。

慰霊碑は昭和63年11月、戊辰戦役百二十周年に際し、新潟のころある方々によって建立された。作家の網淵謙錠先生が書いてくださった、しみじみとした撰文がわたしたちの心に迫ってくる。そしてこの慰霊碑をまもり続けている新潟戊辰の会。

その活動をになっておられるのが、わが人文・法・経済学部同窓会の富岡清嗣さん、馬場武夫さんら諸先輩の方々である。これもまた、たいへん有難く、嬉しいこともある。感謝、感激に尽きる。

随想 卒業

羽田 喜久馬

昭和53年経済学部卒

「春になったら新潟に遊びに行きますから。」「前もって連絡くれ。駅前のおいしい居酒屋を押さえておくよ。」

と大学時代の先輩と新潟で会う約束をした。卒業して四十年ぶりの再会となる。先輩とは三年間同じアパートに住んでいた。私が学生だった時は大学が五十嵐に移転したばかりで、今のようにアパートや一般住宅が立ち並んではいなかった。新築された工学部の近くにあったアパートはスイカ畑や雑木林に囲まれていて、風が吹くと砂で廊下がザラザラになった。

新潟生活三年目の年に閨屋の「六花寮」からアパートへ引っ越してきたが、先輩とは直ぐに気が合った。性格が似てるといふか、考え方や話し方に同種類の人間の匂いを先輩から感じたからだ。私は先輩を兄のよ

うに慕い、卒業まで付き合わせてもらった。

私の卒業前に飯豊連峰と一緒に登ることとなった。山形県小国町の長者原から、石転び沢を左に見ながら梶川尾根を登り北股岳で一泊、翌日新潟県の湯の平温泉に下り、そこで一泊する山旅だった。北股岳の山頂直下に熊が出たということで、湯の平温泉に下る時は大声を出しながら、また、ビクつきながらの下山であった。下山後、野趣あふれる露天風呂で、そこまで大事に残しておいたワンカップを一緒に飲んだことを今でも鮮明に憶えている。

それから四十年が過ぎ、大阪にいる同級生から情報提供があった。先輩は、司法試験を目指し新潟で勉強していたが、その後関東で就職し、定年退職後、新潟の実家に戻ってきたとのことだった。私は会津に戻り、三人の子供に恵まれ定年まで無事に勤め上げたが、連れ合いがガンで先立ってしまった。先輩にはどんな人生があったのだろうか。

話すことはいっぱいある。大学卒業とともに切れてしまった縁を繕うとともに、四十年間の空白を埋めるには時間が必要だ。そして今度は、人生の卒業までゆつくりとこの縁を繋いでいけたらと考えている。

随想 山口県訪問記

小澤 清辰

昭和55年経済学部卒

一月十八日(金)〜一月二十日(日)に山口県を訪問しました。これは、山口県の萩山口信用金庫創立百周年記念式典への招待を受けて、会津信用金庫代表(来賓)として、星理事長と共に創立記念式典及び祝賀会に出席してまいりました。

ご存じの通り、会津と山口(長州、特に萩)との間には、幕末戊辰戦争で戦った因縁があり、戦争で負けた会津側には、長州が戦死者を埋葬させずに何

カ月も野ざらしにさせた(埋葬禁止令が出された?)という怨みが強く、(最近、そういう禁止令は出されていないという説も発表されています。)萩市からの友好提案にも会津若松市は応えていない状況です。ただし、東日本大震災の時には、萩市から会津若松市へ三千万円の義援金が贈呈されており、「長州と会津の友好を考える会」の山本貞寿さんのように何回も会津を訪問されている方もいらっしゃいます。

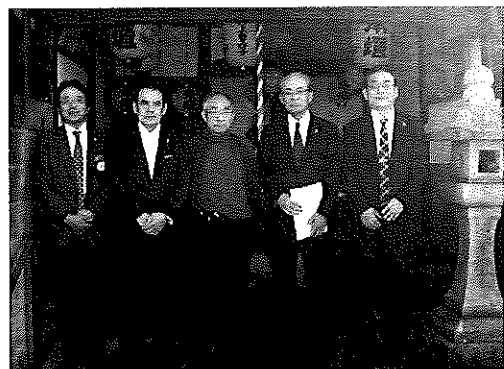
今回、山口県を訪問して、中世(鎌倉・室町時代)からの歴史の深さを感じました。萩山口信金の方の案内で、萩市・山口市の歴史遺産を見学してきましたが、毛利氏の前の大内氏の時代から京都朝廷との深い繋がりがあったことを知りました。大内氏が京都に憧れて造った町が今の山口市で、「西の京」とも呼ばれています。幕末の禁門の変で、会津が薩摩と手を組み長州を京都から追い出した時には、長州最員の公家達が山口県まで落ち延びた(七卿落ち)事にも訳があったのです。

萩市を訪問して、前述の山本貞寿さんにもお会いして来ました。会津人も知らない人が多いと思いますが、萩市に「萩白虎隊」という組織があり、白虎隊を慰霊する御堂があります。丁寧に整備、献花されてあります。

過去の恩讐は簡単には消せないでしょうが、「百聞は一見に如かず」で、会津人も萩市・山口市を訪問してみると良いのではないかと思つた次第です。



山口市の世界遺産「五重の塔」の前で



萩市にある白虎隊慰霊の御堂前です。真ん中にある方が「長州と会津の友好を考える会」の山本貞寿さんです。私は右端、私の隣が当金庫の星理事長、左側の2人は萩山口信金の理事長と理事の方です。

随想

大学で学んだこと

大関 治樹

平成26年法学部卒

私は、新潟大学法学部を卒業し、出身である会津に戻ってきてなんとか会津美里町役場に就職し、気づけば早いものでもう5年の月日が経ちました。大学時代を少しづつ忘れてきていますが、大学で学んだことを思い返したいと思えます。

大学で学んだことといえば、今後の人生の役に立つかどうかはさておき、色んな時間の楽しい使い方と様々な人の考え、人との繋がりの大切さだっただけだと思います。

特に、大学生4年生の頃、就職活動をする時期となつても「とりあえず地元で公務員目指すか」くらいにしか考えておらず公務員に対する考えも無かつたのですが、法学部の所属していたゼミの先生から就職相談の時に「公務員になるにあたって覚えておくべきこととして、行政と民間の大きな違いは、行政は民間と違い利益にならないことが出来ること。

公務員の本質は、利益にならない社会的弱者の助けることにある。」(基本的なことかもしれないが)とお話を受け「公務員は損得抜きで仕事として人を助けることが出来るのか」と感銘を受けたことは、今も深く心に残っています。

また、お互いに気兼ねせず話せるような友人達と出会えたことや、地元に戻ってきてからも新潟大学の同窓会に誘われて知り合いが増えたことも大学のおかげだったと思えます。就職してから色々ありましたが、5年間なんとかやってこれたのは、大学で学んだことや人とのつながりに支えられていたからだと思っています。

これから時代が変わって価値観が変わったり、転職や結婚等の関係で人との繋がりが変わっていつかしまつたりと色々あるのかなと思つていますが、大学で学んだことやつながりをなるべく大切にしつつ頑張つて過ごしていきたいと思えます。

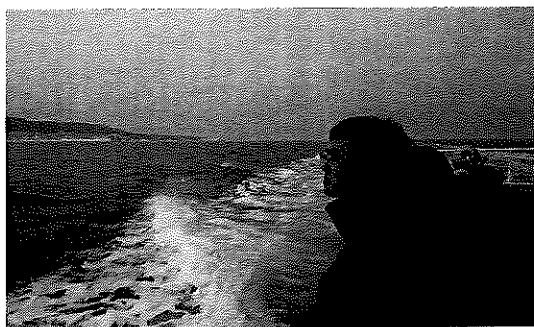
随想

近況報告

阿久津 由紀子

平成7年人文学部卒

現在、竹田総合病院リハビリテーション科に勤務しており、言語聴覚士として、失語症や発達障害など「ことば」に障害のある方(こどもさんからお年寄りまで幅広く)の支援を行っています。早いもの



で、卒業から20年余り経ちましたが、新潟大学人文学部心理学研究室で学んだ神経心理学や発達心理学などが、今の私の仕事の礎となっています。

つい先日、恩師の鈴木光太郎教授が退官というところで、新潟大学五十嵐キャンパスにて行われた最終講義に出席してきました。鈴木先生はTV番組「世界一受けたい授業」にも出演した大変講義が面白い名物教授ですが、最終講義も非常に印象深かったです。「私の先生」というテーマで、数多くの出逢いと交流について語られました。結論は「先生は一人でなく大勢いてよい」「知識ではなく姿勢、ものの見方、生き方を見習おう」というものでした。

昨年同窓会会津支部に初めて参加し、それぞれで活躍の同窓生との出逢いに、ドキドキワクワク楽しく過ごさせていただきました。先輩後輩の皆さんの生き方、ものの見方を知り、一人一人を先生として交流できたらと思っております。

ちなみに、鈴木先生には「お酒の楽しさ」も教わりました。会津支部にも、お酒の師匠がたくさんいますね(笑)

※写真は、鈴木先生を囲んでの一枚です。右端が阿久津です。



支部訪問記 其の一

私たちの同窓会には、会津支部のほかにも首都圏、東北(仙台)、秋田、山形、長岡、栃木、群馬、長野、福島県中央の各県、圏域の支部があります。そのほか、新潟地区の若手および五十嵐キャンパス世代の学部横断かつ現役学生も参加する「五十嵐会」があります。私は、会津支部事務局次長から事務局長へとなるこの五年間、公式または私的に各支部を訪問してまいりました。今年東北支部の総会に参加させていただければ、全支部訪問を達成することになります。そこで、順不同にて、各支部での交流についてひとこと述べさせていただきます。

第一回は群馬県支部です。群馬県支部には、五十嵐寮の一期生で同級生の、松田久君がいるので個人的に交流を深める目的もあり訪問いたしました。

最初は、二〇一五年、11月家内との温泉旅行を兼ねマイカーで磐越、東北、北関東自動車道で四時間、開始時間より一時間早く現地に着いたので世界遺産に登録されたばかりの富岡製糸場を見学し、会場の高崎メトロポリタンホテルへ、家内は高崎駅前映画鑑賞で宴会終了を待ちます。

まず参加者数に圧倒されました。70名もの会員で会場は熱気満々です。荒井支部長、松山事務局長はじめ役員の皆様のご人徳とご努力の賜物なのだと、深く感謝を受けました。このときは私的訪問を強調させていただいたため、宴会中に壇上ひとこと述べたにとどまりました。最後は、ピアノの達人の会員の生伴奏で学生歌をみんなで合唱し散会いたしました。その後は、家内の運転で老神温泉に宿泊し、帰りは、名瀑、吹割の滝(写真)、富弘美術館を鑑賞しました。

次の訪問は二〇一七年8月、青春18切符で西若松、会津川口、只見、小出、水上、新前橋と乗り継ぎ午後2時頃高崎に到着しました。他の支部では夏の総会が多く、青春18切符は各支部訪問に大いに役に立ちました。

実は私「鉄ちゃん(乗り鉄)」ですので訪問地が確定してればその乗り継ぎを大いに楽しんでおります。今回も只見線、上越線の鉄たびを堪能いたしました。上越線は、学生時代就職活動で新潟・東京間を急行佐渡で行き来した思い出があります。今回、只見線の車中に携帯置き忘れるという事態となり松田君と連絡が取れず、会場でやっと顔を合わせほっとした次第です。なお、携帯は翌日、会津若松駅の遺失物係で無事帰ってきました。

今回の総会もまた、70名を超える大宴会となり、「会津の鈴木さんには前回大変失礼した。今回は来賓あいさつを」と予期せぬお申し出!そしてあいさつ代わりに「私、プロレス好きなので」と前置きして、「百年にひとりの逸材」棚橋弘至選手のリングの雄たけびをもじって「にいがたーだいがくー愛してまーす」と絶叫し大いに受けました!(秋田県支部の初回はすべった!)その後、群馬銀行のかたがたと二次会、松田君と三次会に行き、高崎の楽しい夜を過ごしました。(次回は秋田県支部です)

(鈴木伸康 昭和59年人文学卒)

